

令和3年度 墨田区立第三寺島幼稚園 経営計画書

園長名 福井 みどり

幼稚園目標	人間尊重の精神を基調とし、心身ともに健康で、知性・感性に富み、人間性豊かな幼児を育成する。 ◎元気に遊ぶ子ども ○やさしい心をもった子ども ○進んで取り組み、最後までやりぬく子ども
目指す幼稚園像	子どもが主役の幼稚園
目指す子供像	◎元気に遊ぶ子ども ・意欲的に遊び、諸感覚で感じ取り、自分なりに表現することを楽しむ。 ・明るくのびのびと充実感を味わうよう、遊びの中で十分に体を動かす、 ・健康な生活リズム、食の習慣を身に付け、暑さ寒さに負けず進んで戸外で遊ぶ。 ・危険なことや災害について知り、安全に気を付けて行動する。 ○やさしい心をもった子ども ・友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。 ・自然や身近な動植物に親しみ、命あるものを大切にし、いたわる気持ちをもつ。 ・高齢者や地域の方達、異年齢の子ども達に親しみをもつ。 ・様々な国の文化に触れ、親しみをもつ。 ○進んで取り組み、最後までやり抜く子ども ・遊びや行事等を通して、自分なりの目標をもってやり抜き、熱中する体験を積む。 ・試行錯誤や協同することを積み重ね、友だちや他の人との関わりを楽しみ達成感を味わわせる。 ・「なぜ、どうして」など、興味や好奇心をもち、少しずつ自分の世界を広げていく。
目指す教師像	<u>教職員の基本姿勢 「子どもが主役の幼稚園」</u> ○愛情をもって子どもの思いや願いを受け止め、自立心や意欲を育てるよう、認め勇気づける指導を行う。 ○幼児理解に努め、一人一の興味関心を大切にしながら、日々の教育活動・環境づくりを振り返り、研究・研鑽に努める。 ○園の教育活動を保護者の地域の皆さまに進んで知らせ、共に児童の成長を喜びあう。幼稚園が親と子の温かい育ちの場となるよう、親身に接し相談や支援に努める。大人も相互に学び合い成長する。 ○保護者、地域、小中学校と連携し、豊かな関わりや具体的な体験の場を創り出す。

項目	取組の視点	取組目標	成果指標
保育活動等	幼児の主体的な活動を促す教育の実施等	○幼児の関心意欲を高める環境作りや、保育活動を創り出す。試行錯誤や協同の繰り返しの中で、自分で考え行動する芽を育てる。幼児の発達の段階に応じた課題の設定をし、個別と一斉の指導のバランスをとりながら、保育活動を進める。	・日々指導後の振り返りを大切にす。日案、週案により実践の振り返りが行われる。 ・子どもの姿が分かりやすく記入される。主体的な活動を促す効果的な実践が蓄積され、次の計画に生かされる。
	特別な支援を必要とする幼児に対しての、組織的な支援等	○全教職員の共通理解を基に、特別支援教育体制を整え充実させる。 ※1日常の情報交換、特別支援教育の研修(巡回相談その他)保護者との面談、関係機関との連携、就園、就学相談の充実	・幼児への理解が進み、保護者との信頼関係が増し、教職員が一致した対応が出来るようになる。 ・他機関との連携が進み、就学相談や療育など適切な支援が保護者と共に作られる。
	将来の自立のに向けた保育活動・相談活動等	○幼保小の連携を進め、スタートカリキュラムに対応した、アプローチプログラムを進めていく。日常的な相談を進め、就学相談や進学への丁寧な対応に努める。	・自信を付け、就学への期待や意欲が高まる。新しい環境への適応がスムーズになる。

	教員の指導力・授業力を高めるための、組織的な取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○園内研究・区幼研などで、具体的な保育実践を通して研究研修を進める。 ○OJT や園内研修を通し、指導力向上を図る。 ○若手と経験者でチームになって実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して PDCA サイクルで保育実践を見直す。外部講師などからの指導を生かし、保育活動が変容する。
生活指導等	問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等	○教職員は幼児の良さに目を向け、勇気づける対応に徹する。園児には友だちの良さに目を向けさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が安心して登園できる。保護者からの相談に随時対応出来ている。
	基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等	<ul style="list-style-type: none"> ○「早寝、早起き、朝ご飯」の施行を進める。 ○元気なあいさつができるよう支援する。言語環境を整え、教師は正しい言葉を使う。ふわふわ言葉を使うよう指導する。 ○遊びの中で集団のルールや善悪の判断を身に付けさせる。また、自分の気持ちを調整することを学ぶ。 ○三寺小学校、近隣中学校、高齢者や保育園児等と交流を通じた、関わりを大切にされた保育を進める。 ○絵本の読み聞かせや親子読書の時間を設定し、心を育て、人のぬくもりや温かい言葉を感じられる時間や場の設定をする。 ○飼育動物や植物を通して、自然体験を広げ、命の尊さや大切さを学べるよう、本物から学ぶ教育の実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムが整う。活動意欲の向上。(欠席、遅刻の減少) ・元気なあいさつができる。幼児の言葉を大切にし、ふわふわ言葉が広がる。 ・集団での活動を通して、規範意識が高まる。自己コントロール力が付く。 ・人への信頼が増し、他者への思いやりのある行動が見られる。 ・命あるものを大切にしようとする姿が見られる。
	安全を確保するための取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的に防災・安全教育を進める。適時の安全面での指導を徹底する。園独自及び、小学校と連携した訓練や、保護者参加の訓練、遠距離の避難訓練を進め「自分の身は自分で守る」意識を、幼児なりに身に付けさせる。 ○不審者対応訓練・環境整備など、園生活の安全を高める取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の対応が一致し、安全への意識が高まる。幼児の避難行動がより速やかになり、安全への意識も高まる。 ・園生活の安全性が高まる。
	幼児や保護者からの意見や要望への対応	○幼児一人一人を尊重し、常に傾聴する。日常の対話を大切にし、教職員からの声かけや要望の聞き取りを進める。地域訪問・個人面談を実施。園公開、各行事のアンケートを毎回実施する。実施後の集約を保護者に発信する。(園便り、HP)	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児、保護者の要望を生かし、改善を進めた保育活動が展開される。 ・
園の管理運営	経営方針に基づいた組織的な教育活動・園運営等	○園の教育計画を基に、副園長を中心に進行管理に努め、若手と経験者が協力して、時期を得た計画立案、適切な実施を進めて行く。	<ul style="list-style-type: none"> ・若手育成と共に、経験者のリーダーシップが育つ。チームとしての意識が育つ。
	幼児の実態に合わせた教育目標の設定及び評価等	<ul style="list-style-type: none"> ○「元気によく遊ぶ子ども」重点にし、自然体験や生活体験を、年間を通して行い、本物から学ぶ体験を通して、自発的に活動することや、表現することを楽しむ意欲や態度を育てる。多様な遊びで生きる力の基礎を育み、将来の「自ら学び考え行動する力」につなげていく。 ○学校・園運営連絡協議会を開き、園での教育活動について、意見交換を行う。 ○保護者アンケート・自己評価を実施し、分析上、園関係者による評価の機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境作り、年間指導計画を工夫し実践を積み重ね、幼児の「遊びこむ姿」が見られるようになる。 ・評価を基に、改善策が講じられ、学校計画・教育計画に生かされる。
	教育環境・設備等の整備状況等	<ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック・パラリンピック教育のため専門講師を招き、教材・教具を整備する。 ○園庭での熱中症予防策として、日よけの整備、園内の防災のための整備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育活動が活性化する。 ・園庭での遊びがしやすくなる。園内の安全性が高まる。
家庭・地域連携	教育方針や日常の教育活動の様子などを伝える取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○園公開、各種行事等保育活動の公開を進める。 ○園便り、クラス便り、HP、スライドショー、掲示板により、保育を分かりやすく知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育方針への理解が深まる。 ・保護者間、親子での対話が深まる。
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者や家庭の参加による行事を行う。保護者の会との連携を進め、豊かな教育活動につなげる。 ○行事に、地域関係者を招き、園児との交流を進める。 ○幼保小中一貫教育を進め、行事を共同で実施し、園への訪問を積極的に促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来園者の増加、園への理解協力体制の強化。